

亀戸史跡めぐり

(歩け歩け大会 -資料-)



主催:江東区青少年対策亀戸地区委員会

令和2年1月11日(土)



1 亀戸銭座旧跡 亀戸二丁目6番

このモニュメントは、寛文8年に亀戸銭座で造られた

「寛永通宝」をモデルに作成したものです。

レリーフには、「銭座絵巻」(享保13年(1728年))

より銭座で行われていた銅貨製造工程のうち、平研(銅貨の

表面を磨く)作業をしている図(日本銀行貨幣博物館所蔵)

の絵を参考にしたものが描かれています。

江戸時代に銅銭が本格的に製造されたのは、寛永13年(1636年)に始まります。

そのため、幕末までに造られた銅銭は全て寛永通宝と称し、「寛永通宝」の文字が打ち出されています。

寛文3年(1663年)から天和3年(1683年)まで、亀戸2丁目の住宅・都市整備公団団地

のある付近で、寛永通宝銭が造られ、「亀戸銭座」と称しました。

寛永通宝の裏面は無印のものが多いのですが、造られた場所の文字などが入ることがあり、この時造られた銅銭には「文」の文字が入っており、「背文銭」といわれています。

また、明和5年(1768年)にここで造られた真鍮銭には、21本の波模様があるので「波銭」

といえます。明和6年(1769年)に造られた真鍮銭には、11本の波があり、その「寛永通宝」

の文字は、福住に住んでいた書家、三井親和の筆跡です。

亀戸銭座では、このほかにも元禄4年(1691年)、宝永5年(1708年)から正徳2年

(1712年)、正徳4年(1714年)から享保3年(1718年)、元文2年(1737年)、

明和2年(1765年)から4年(1767年)としばしば銅銭や鉄銭を製造した記録が残っています。

ます。

昭和41年に当時の日本住宅公団が住宅を建てる時に、多くの寛永通宝銭が発見されました。

(江東区ホームページ「史跡をたずねて」より)



2 日清紡績創業旧跡 亀戸二丁目6番

明治以降、江東区の工業が発展したのは、水運の便に

めく
恵まれていたからです。

日清紡績は、1907(明治40)年に 資本金1,000万円

で設立され、翌年 この地に本社と亀戸工場を新設しました。



当時は、2万坪あまりの広大な敷地を有する工場で、高さ3メートルにも及ぶレンガ塀が周囲を

囲み、多くの女工が働いていましたが、昭和20年、戦災により焼失しました。

戦後は 運動場として利用されていましたが、1967(昭和42)年に都市部最初の高層集合

住宅となる亀戸二丁目団地と 東京都水道局施設として生まれ変わりました。

日清紡創業の地 碑文

日清紡績創業の地

日清紡績株式会社は明治四十年一月創立後、東京府南葛飾郡亀戸町の当敷地二万余坪に、最新鋭設備を誇る本社工場を建設した。

最盛期には、紡機一〇七、八〇〇錘、織機三六〇台を擁した本工場は、昭和十六年軍の要請により陸軍被服本廠が使用するに至るまで、四十五年に亘り主力工場として綿糸布を生産し、広く内外の需要に応えんと共に、幾多の人材を輩出した。

この間明治四十三年、大正六年、昭和十三年の三たび横十間川の洪水で浸水し、大正十二年には関東大震災に逢ったが、従業員の献身的努力によりこの職場を守り得た。

昭和二十年大戦下の空襲により焼土と化したのが、運動場として整備し主として勤労青少年の体育に寄与してきた。偶々昭和四十二年東京都浄水場、日本住宅公団用地として提供するに至り、当社の手を離れた。

今般この地に記念碑を建立し会社創業関係者の遺徳と、生死苦楽を共にした多数従業員各位の功績を偲ぶものである。

日清紡績株式会社

昭和四十六年五月建之

3 水神森の碑 亀戸四丁目11番 水神社

ミズハノメノ（弥津波能売神）という水の女神が奉られています。江戸時代の享禄年間（1528年）に、この付近の水田開拓の際、堤防の突端に水神社を創立しました。

以来、利水、治水の神として、人々から崇拝され、今もお祭りや大晦日には地元の人でにぎわいます。境内にある石祠は宝暦12年（1762年）に再建されたものです。昭和13年10月には、水神森の由来の碑が建立されました。この付近の地名が水神森となっているのは、ここに水神社があったからです。



4 常光寺 亀戸四丁目48番・・・寿老人（延命長寿）

別称、「六阿弥陀」と呼ばれ、江戸阿弥陀巡礼の6番目の霊場として栄えました。本尊は阿弥陀如来で行基の作と伝えられています。



また、亀戸七福神の「寿老人」が奉られています。六阿弥陀詣は春と秋のお彼岸に6体の阿弥陀像を参詣することで、江戸時代の人にとっては行楽の一つでありました。なお、他の5か所は、西福寺、無量寺、与楽寺（以上北区）、恵明寺（足立区）、常楽寺（調布市）にあります。



江戸名所図会「六阿弥陀詣の様子」（画像提供：深川江戸資料館）

【その他の史跡】

- ① **常光寺阿弥陀像** 常光寺は六阿弥陀ゆかりの寺であることから、墓地に大きな阿弥陀坐像の露坐仏があります。
- ② **宝篋印塔** 高さ5メートルの大きな重宝篋印石塔は、宝暦9年(1759年)8月に造立されました。高さ6・6メートルのさらに大きな重宝篋印石塔は、文化元年(1804年)10月の造立です。
- ③ **常光寺金石文**
- * **石地藏** 延宝3年(1675年)7月、元禄16年(1703年)7月25日造立の石地藏があります。
 - * **石灯笼1対** 寛文13年(1678年)7月15日奉納されたものです。
 - * **六阿弥陀道標** 延宝10年(1682年)2月15日建立の六阿弥陀への道標です。
 - * **庚申石道標** 右さかさい道、十六あみだ六番目と書かれています。
 - * **石水盤** 延宝8年(1680年)1月21日奉納の石手水鉢です。
 - * **丸彫庚申塔** 苦いものを食いつぶしたようなクシャクシャ顔の仏像です。

5 石井神社旧跡 亀戸四丁目37番

おしゃもじ稲荷と呼ばれ、咳の病気の神として信仰されてきました。熱病除、百日咳除におしゃもじを拝受するとご利益があると伝えられています。

咳、しゃくし、しゃもじと通じ、咳の神となり、しゃもじが奉納されます。かつては、

石器時代石棒を祀ったといわれ、石器時代の遺跡ともいわれています。

由緒には「弘仁2(811)年9月、弘法大師により発現された社にて」とあり、級長彦命、津長井命、岡象女命を祀っています。毎年9月28日、薩摩芋数十俵を町内住民に授けたところから別名「おしゃもじ様の芋祭り」と称したと伝えられています。



6 宝蓮寺 亀戸四丁目35番

① 虚空蔵旧跡

宝蓮寺は嘉元2年（1303年）の創立

と伝えられ、虚空蔵菩薩を安置しています。

江戸時代は江戸三虚空蔵の1つとして有名
でした。



② 歌川国輝の墓

浮世絵画家五渡亭国貞の弟子で幕末から明治に

かけて、版画界で活躍しました。

初めは歌川貞重といい、子供絵や教訓絵などの

錦絵を多く描き、特に「教訓三界図会」が有名です。

弘化4年頃に歌川国輝と改名したといわれています。

明治7年12月15日 45歳で亡くなりました。



「当世菊見図」国会図書館蔵

③ 宝蓮寺金石文

* 宝篋印塔 高さ3・3メートルの重宝篋印石塔、文化元年（1804年）12月、
万人講が奉納しました。

* 石地藏 天保13年（1842年）2月造立の地藏です。

7 東覚寺 亀戸四丁目24番 弁財天（芸道富有）

東覚寺は、享禄4年（1531年）玄覚法印の創建と伝えられています。

明治34年（1901年）猿江2丁目にあった覚王寺を合併しました。覚王寺は府内

88ヶ所霊場第73番札所であり、それを示す碑が東覚寺に残されています。

当時の不動明王は、東大寺別当良弁の作で、大山寺（神奈川県）本尊と同木同作といわれ、

江戸時代より亀戸不動として信仰を集めました。

亀戸七福神のひとつ（弁財天）として親しまれています。

